

2008/10/05 白寿荘事業報告

2007、11月に茨城県歯科技工士会からの申し入れにより行われた、茨城県歯科医師会、茨城県歯科技工士会、茨城県歯科衛生士会の3団体合同による事業。

歯科技工士による入所者の技工士刻銘(60床)と、衛生士会による入所者に対する口腔ケアの実技指導を行った。

上記事業を行うにあたり、それまで対象施設職員に対して行ってきた口腔ケア講習会、施設職員が日常のケアで困っている点などを検討し、衛生士会による事業は講習会ではなく、入所者に対する口腔ケアを実践してHow Toを見てもらうポリクリ形式とした。

当日参加者、歯科医6名、歯科衛生士4名+1名(主管歯科医院勤務)、技工士会13名+2名(主管歯科医院関連)、施設職員12名(?)、他施設からの見学者7名(1名は医師)、保健所1名、関連病院看護師20名(病棟で口腔ケアの実践デモ、症例19)。

事業後の当該施設での講習会では、「口腔ケアは歯を磨くことではなかった。」「口を閉じるから、拒絶されるからできないということではなく、やりようによってはできるんだ。」などの意見が多く出され、とても意義のある事業だったと言える。

今後の講習会の参考資料として、今回の事業の症例を解説してみる。

対象者のほとんどが重度認知障害で、健常者に対するようなアプローチでは協力が得られなかった。そのため狭義の口腔ケア(歯面清掃)をメインとするのではなく、広義の口腔ケアを目的とし、重度障害者、ハイリスクな対象者(症例19)には口腔乾燥の改善、硬化した痰、剥離粘膜の除去を目的とした口腔ケアを行った。

多くの対象者には、それぞれに対応したブラッシングと、口腔内外のマッサージ、ストレッチングを行い、それまでの拒絶に対してのラポール、モチベーションを図った。比較的抵抗感の少ないマッサージ、ストレッチングを継続することにより、拒絶などは徐々に改善されると思われる。

いきなり歯面清掃するのではなく、マッサージ、ストレッチングから、信頼関係を築きながら本格的な口腔ケアに進むというアプローチが、参加者にとって大きな発見であった。

症例 19 は、病棟から下記要件で口腔ケアのデモ依頼のあったものである。

誤嚥性肺炎を繰り返す。

胃瘻、自分の歯牙があり、口腔ケアを行おうとすると、嘔み、ケアを拒否する。 バイトブロックを使用してクルリーナブラシで口腔ケア実施中。

所見

口腔乾燥、口唇部も乾燥しガビガビの状態、硬口蓋、咽頭部に硬化した痰、咽頭分泌物、舌苔。

考察

誤嚥性肺炎を繰り返すのは咽頭残留物の誤嚥など、口腔内が清潔でないため。

胃瘻などの経管栄養では、唾液分泌量の減少、水分の経口摂取がなく、口腔、咽頭は呼気により乾燥し、痰、分泌物、剥離粘膜は硬化して除去困難になる。十分な配慮なしに除去しようとする、正常粘膜から力任せに引き剥がすかたちになり、痛みを伴い、ケアを拒絶するようになる。

このため、十分な口腔清掃は行えず、口腔内、咽頭部の清潔状態も改善せず誤嚥性肺炎を繰り返す。

対応

口腔ケアを拒絶されないようにアプローチすることが重要である。

拒絶の主因は口腔乾燥に伴うものであるから、保湿剤の使用、十分な口腔内刺激などによる唾液分泌の促進などにより、硬化した痰などを十分に軟化させて除去する必要がある。

普段から口腔乾燥を予防する取り組みを行う必要がある。

保湿剤の使用、唾液分泌を促す目的での口腔マッサージなどのケア、呼気による乾燥を防ぐための居室の加湿、口腔衛生状況が改善したならば徐々に経口での水分摂取を始めてはどうだろうか？

事業後、毎日数回行われる咽頭吸引のたびに、各看護師が口腔内マッサージを行い、唾液分泌の改善、口腔乾燥の予防を努めるように、すでに始めていると報告を受けた。特にこの症例に関しては、痰などの咽頭分泌物を除去するのに悩んでいた看護師たちにとって意義があったようである。

口腔ケア = 口腔清掃 という認識が多いが、口腔ケアは咀嚼、嚥下、排痰、咳反射などの健全な口腔機能、正常な唾液分泌、衛生的な口腔状態を目的とす

るものである。いくら歯磨きをやって、その方の状況によっては口腔ケアとしてはなんら意味の無い場合もある。むしろ直接歯磨きをするのではなく、会話、肩、首、顔面周囲のマッサージ、口腔内外のマッサージなどにより嚥下に関する筋肉群のストレッチなどのリハビリから始め、嚥下関連筋肉群のリハビリと口腔内を触られることに対する拒絶の改善を目指すことも大事だと思われる。嚥下自体に障害が無いのであれば、衛生的な口腔内で正常に分泌された唾液は自然に嚥下され、それ自体が嚥下リハであると認識すべきであろう。

各症例は、複数台のビデオで撮影しているものもあるので（述べ5時間半）重複しているものも多いが、アングルが違う、局所アップ、全体像など、それぞれを比較しながら見てみると利用価値が高いと思われる。